

2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度

問4. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について知っていましたか。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、全体の4割強において認知度が得られているが、そのうち、内容まで知っていたのは約2割。男性においては5割強の認知度を得られている。

【全体】

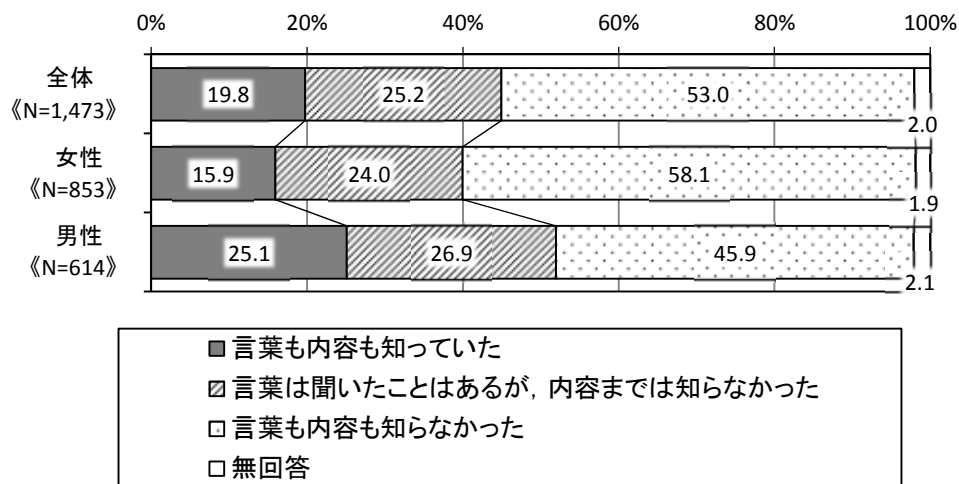
「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉も内容も知らなかった」が53.0%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」25.2%、「言葉も内容も知っていた」19.8%と続いている。

【性別】

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉も内容も知らなかった」は女性58.1%、男性45.9%で、女性の方が男性よりも12.2ポイント高い。

また、「言葉も内容も知っていた」は、男性25.1%、女性15.9%と、男性の方が女性よりも9.2ポイント高くなっている。

ワーク・ライフ・バランスの認知度【全体、性別】



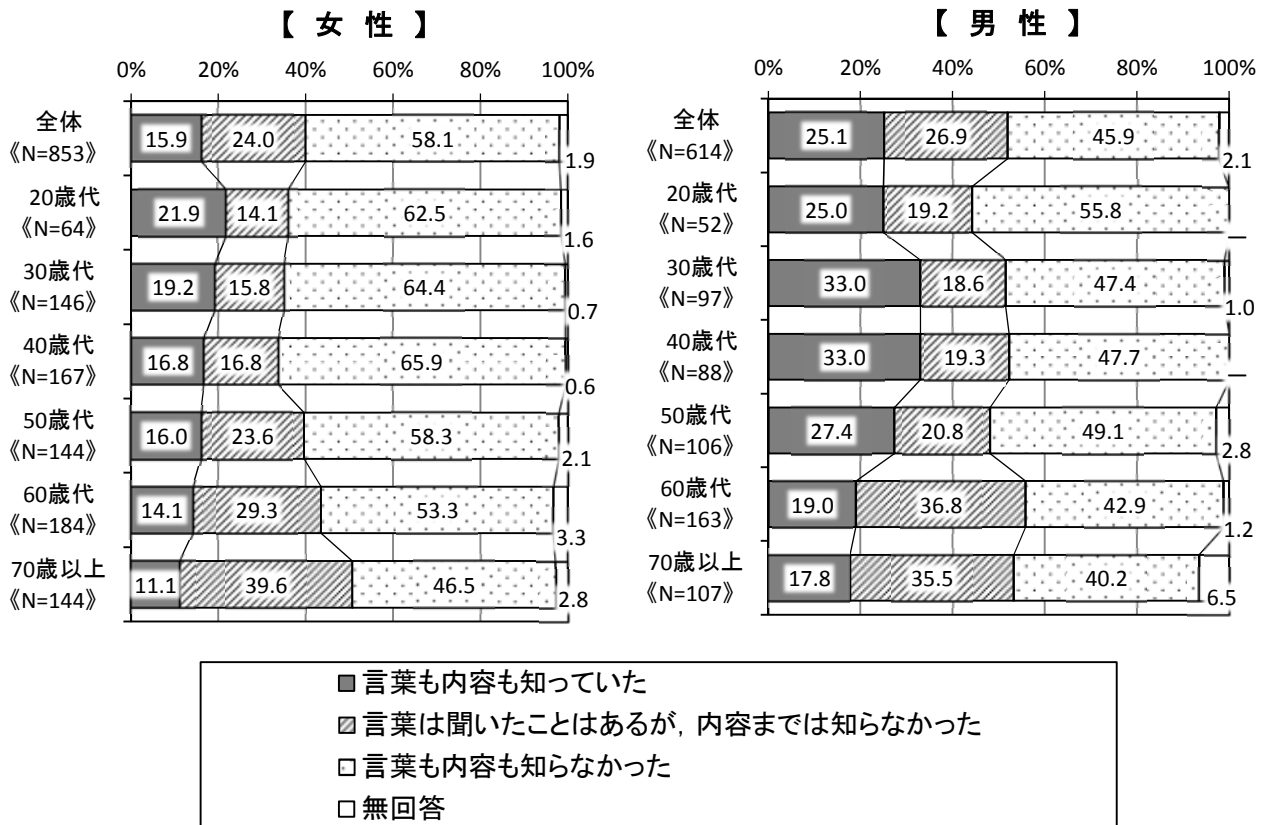
【性・年代別】

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、女性・男性ともに、年齢が上がるにつれ、認知度は高くなる傾向にある。一方で言葉の内容については、男女ともに60歳代以上においては他の世代と比べ未だ浸透が進んでいない。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉も内容も知っていた」は、女性の20歳代と30歳代で約2割、男性の30歳代と40歳代で3割以上と、年代のなかで最も高い。

「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」では、男女ともに年齢が上がるにつれ、その割合も上昇し、女性の60歳代で29.3%、70歳以上で39.6%、男性の60歳代で36.8%、70歳以上で35.5%となっている。

ワーク・ライフ・バランスの認知度【性、年代別】



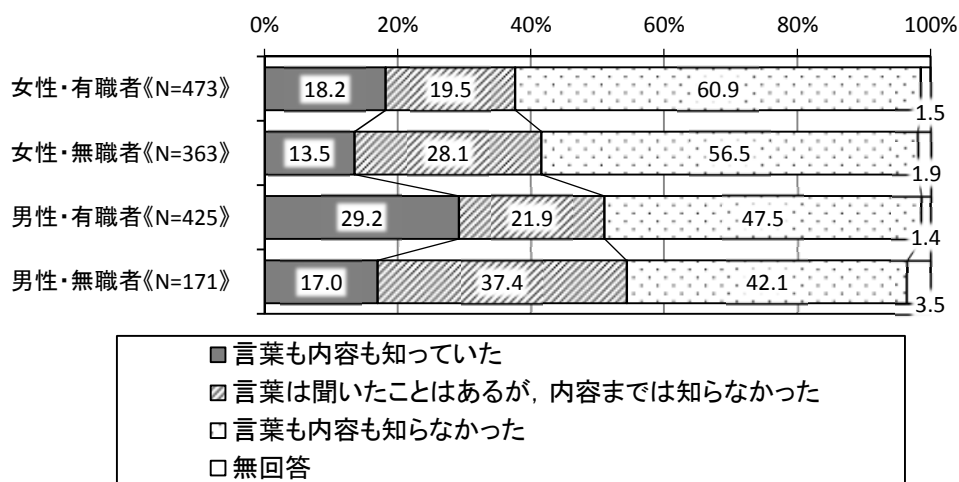
【性・職業の有無別】

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、言葉の内容まで理解していた割合は、男女ともに、無職者は有職者に比べると低い。一方で、言葉の認知度は有職者よりも高い割合で浸透している。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉も内容も知っていた」は、男性有職者が 29.2%、女性有職者が 18.2%となっている。

「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」では、男女ともに無職者の割合が高く、女性は 8.6 ポイント、男性は 15.5 ポイント高い。

ワーク・ライフ・バランスの認知度【性，職業の有無別】

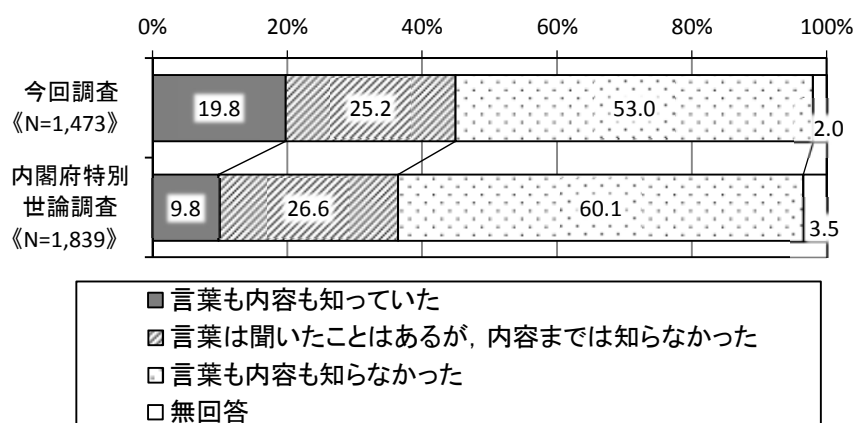


【内閣府特別世論調査との比較】

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、内閣府が実施した世論調査と参考比較した場合、今回調査において言葉の内容まで理解している割合は約2倍近く多い。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉も内容も知っていた」は、今回調査が内閣府特別世論調査よりも 10.0 ポイント高く、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった」と合わせると今回調査は 45.0%、内閣府特別世論調査では 36.4%と、8.6 ポイント上回ったことになる。

ワーク・ライフ・バランスの認知度【今回調査・内閣府特別世論調査】



(2) ワーク・ライフ・バランスの現実と理想

問5. 生活の中で、仕事、家庭生活(家族と過ごすこと、家事、育児など)、個人・地域の生活(趣味、娯楽、ボランティア活動など)のうち、何を優先しますか。現実と理想について、お答えください。

①現実

ワーク・ライフ・バランスの現実について、男性の約5割は「仕事」を優先し、約1割は「家庭生活」を優先している。

女性は約3割が「仕事」を優先し、3割が「家庭生活」を優先している。

【全体】

ワーク・ライフ・バランスの現実について、『「仕事」を優先』が38.4%と最も高い。次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先』24.9%、『「家庭生活」を優先』21.9%と続いている。

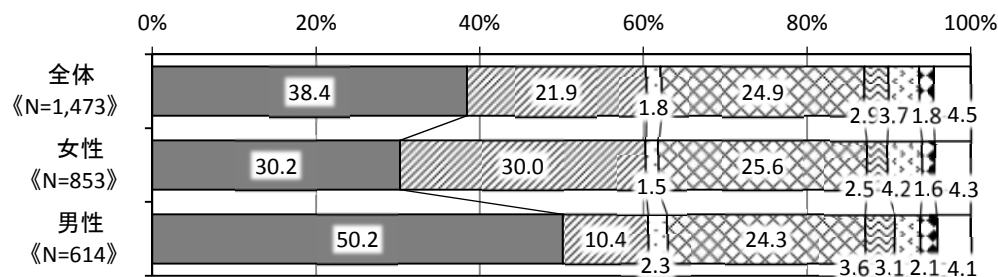
『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』している人は1.8%である。

【性別】

女性では、『「仕事」を優先』が30.2%であり、『「家庭生活」を優先』30.0%とほぼ同じ割合であり、『「仕事」と「家庭生活」を優先』している人も25.6%いる。

男性では、『「仕事」を優先』が50.2%であり、『「仕事」と「家庭生活」を優先』は24.3%いるが、『「家庭生活」を優先』は10.4%である。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ①現実【全体、性別】



- 「仕事」を優先
- ▣「家庭生活」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- ▣「仕事」と「家庭生活」を優先
- ▣「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- ▣「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- ▣「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 無回答

【性・年代別】

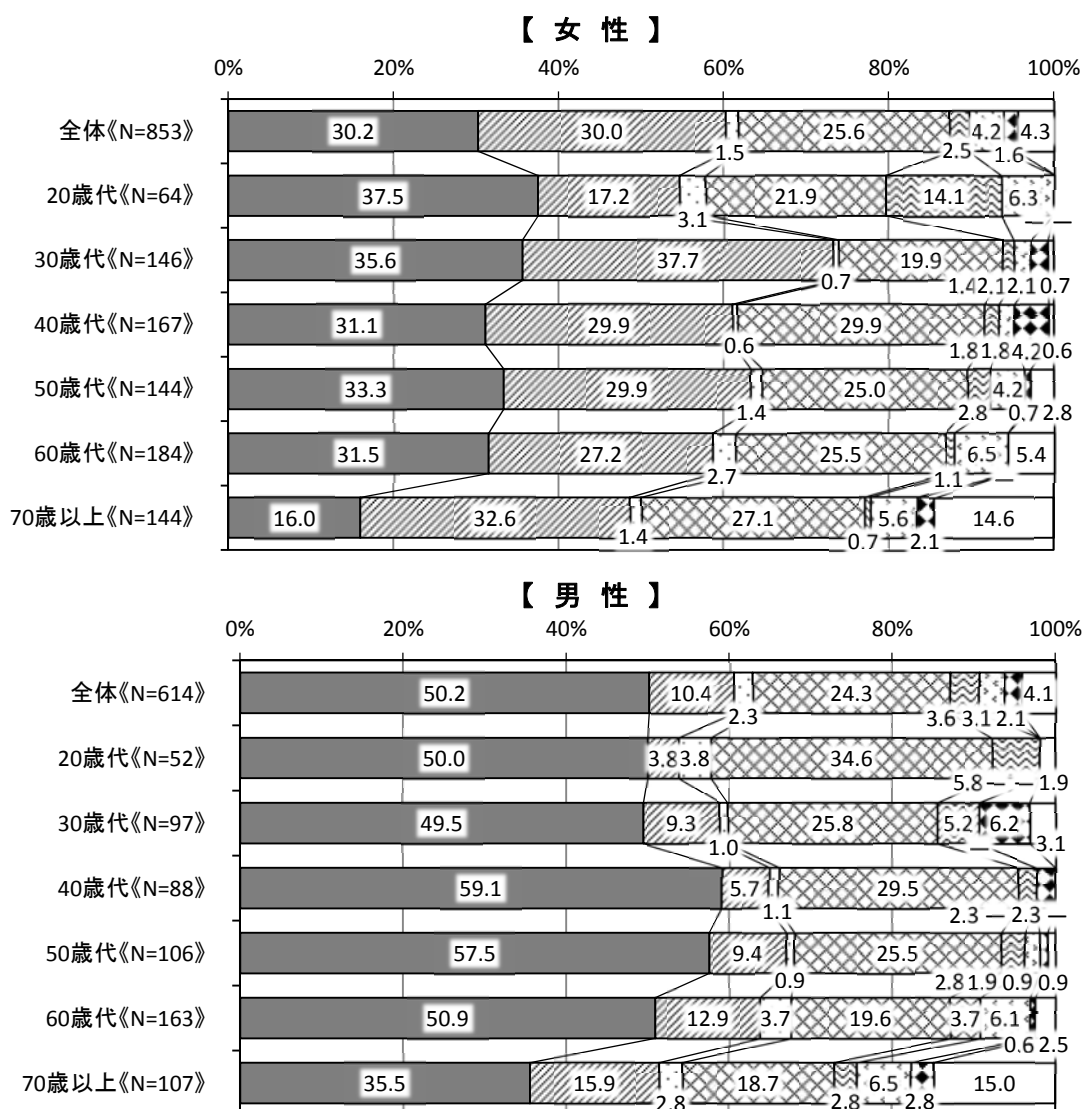
ワーク・ライフ・バランスの現実について、女性の30歳代は約4割が「家庭」を優先している。男性は40歳代、50歳代で約6割が「仕事」を優先している。

ワーク・ライフ・バランスの現実について、『「仕事」を優先』する人が女性30.2%、男性50.2%と、男性が女性よりも2割高い。一方、『「家庭生活」を優先』する人は、女性30.0%、男性10.4%となっている。

女性の20歳代では『「仕事」を優先』37.5%が最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」を優先』が21.9%と続き、30歳代では『「家庭生活」を優先』37.7%が最も高く、次いで『「仕事」を優先』35.6%となっている。また、40歳代から60歳代は『「仕事」を優先』が高いが、『「家庭生活」を優先』との差は5ポイント以下となっている。

男性では、20歳代から60歳代で『「仕事」を優先』が5割前後と高く、特に40歳代と50歳代で6割弱となっている。また20歳代では『「仕事」と「家庭生活」を優先』が34.6%と高い。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ①現実【性、年代別】



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 無回答

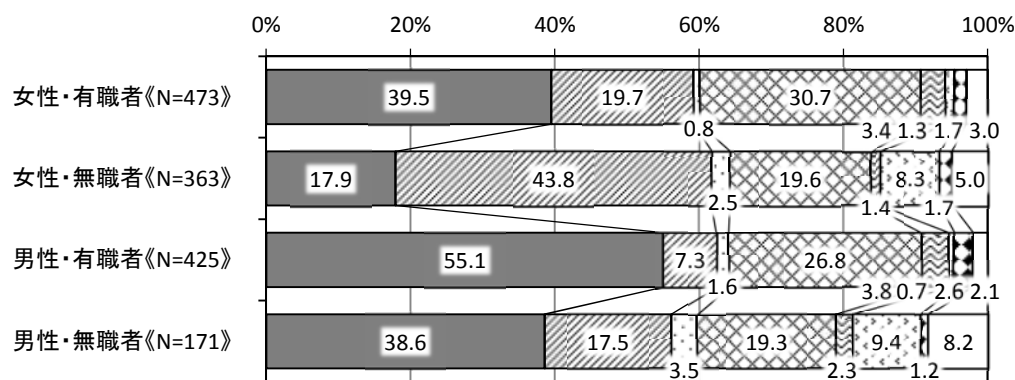
【性・職業の有無別】

ワーク・ライフ・バランスの現実について、女性無職者の約4割は「家庭」を優先している。また、男性有職者の約6割が「仕事」を優先している。

ワーク・ライフ・バランスの現実について、女性有職者では、『「仕事」を優先』が39.5%と高く、次に『「仕事」と「家庭生活」を優先』が30.7%と続き、女性無職者では、『「家庭生活」を優先』が43.8%で最も高く、次に『「仕事」と「家庭生活」を優先』19.6%と続いている。

男性有職者では、『「仕事」を優先』が55.1%と高く、次に『「仕事」と「家庭生活」を優先』が26.8%と続いており、男性無職者では、『「仕事」を優先』が38.6%と高く、次に『「仕事」と「家庭生活」を優先』19.3%と続いている。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ①現実【性、職業の有無別】



- 「仕事」を優先
- ▨「家庭生活」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- ▩「仕事」と「家庭生活」を優先
- ▨「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- ▩「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- ▩「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 無回答

②理想

ワーク・ライフ・バランスの理想について、全体の約3割が『「仕事」と「家庭生活」、
「個人・地域の生活」のすべてを優先』を理想としている。

【全体】

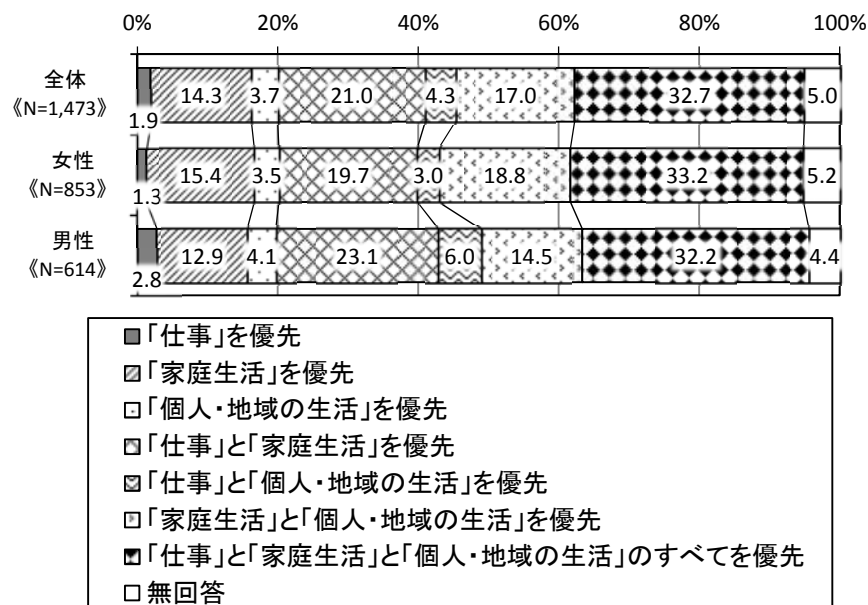
ワーク・ライフ・バランスの理想について、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』が32.7%で最も高い。次に『「仕事」と「家庭生活」を優先』21.0%、『「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先』17.0%、『「家庭生活」を優先』14.3%と続いている。

【性別】

男女ともに優先する順序は全体と同傾向である。

『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』は女性33.2%、男性32.2%とはほぼ同じである。『「仕事」と「家庭生活」を優先』は女性19.7%、男性23.1%で、男性が女性よりも3.4ポイント上回り、『「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先』は女性18.8%、男性14.5%で、女性が男性よりも4.3ポイント上回っている。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ②理想【全体、性別】



【性・年代別】

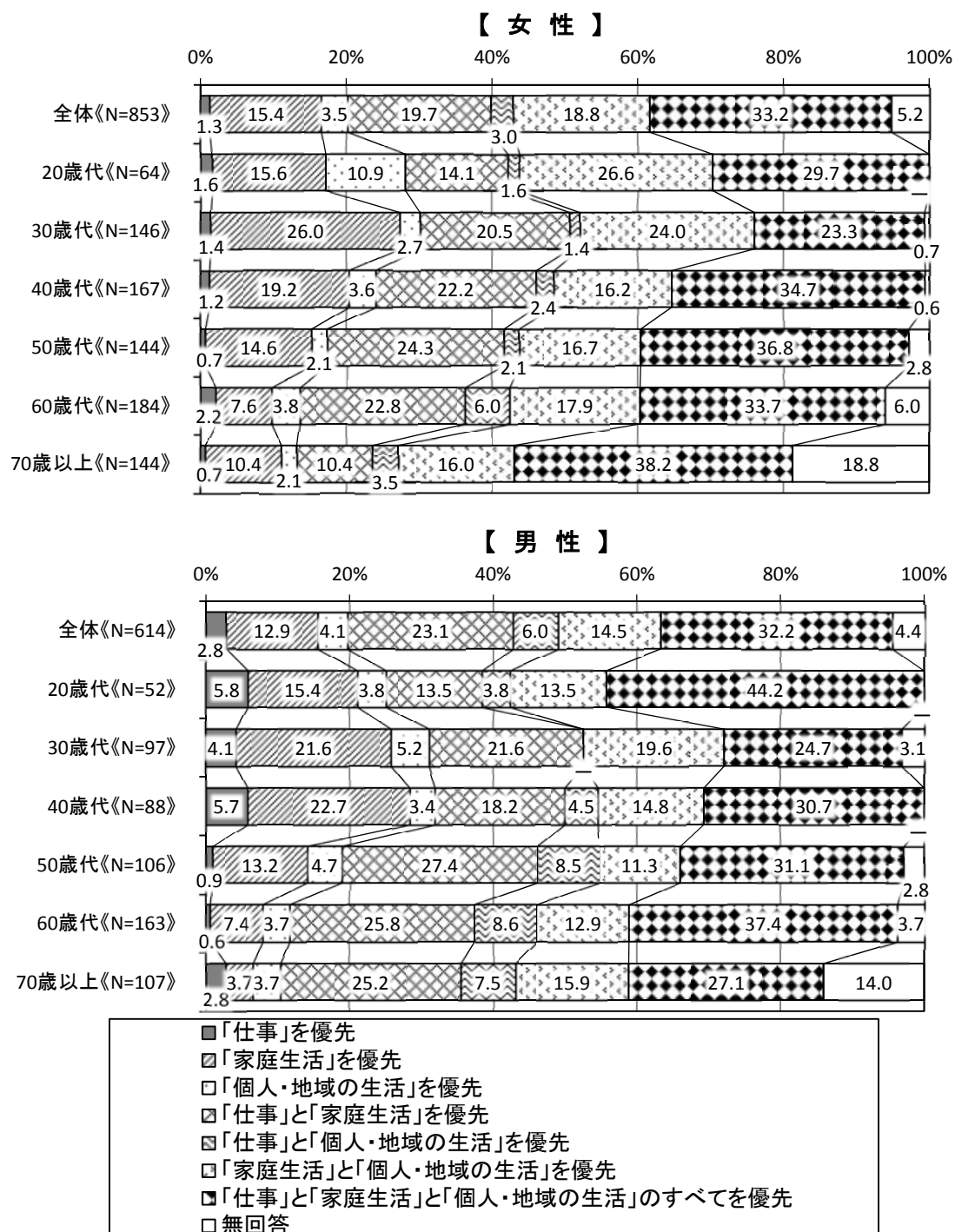
ワーク・ライフ・バランスの理想について、女性では30歳代の約3割が「家庭生活」の優先を理想とし、男性でも30歳代と40歳代の約2割が「家庭生活」の優先を理想としている。

ワーク・ライフ・バランスの理想について、女性の30歳代では、『「家庭生活」を優先』が26.0%と女性全体の15.4%と比べて10.6ポイント上回っている。これは子育てを意識しているものと考えられる。

男性も同様に、『「家庭生活」を優先』が30歳代で21.6%、40歳代で22.7%と高く、男性全体を上回っている。

また、20歳代男性では『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』が44.2%で、男性全体より12.0ポイント上回っている。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ②理想【性, 年代別】



【性・職業の有無別】

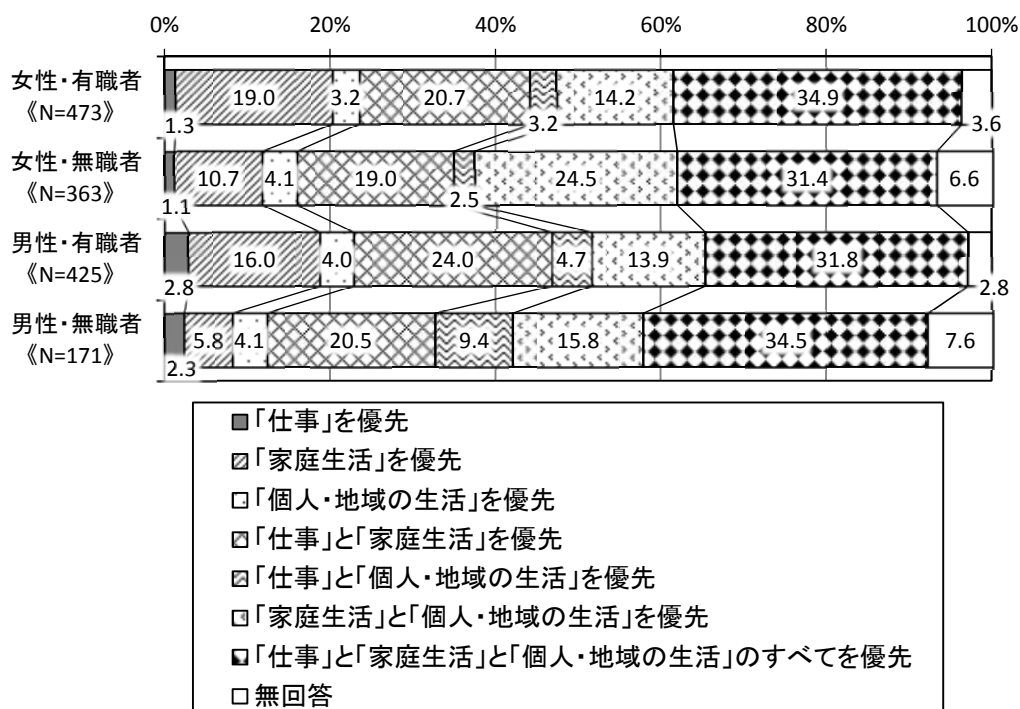
ワーク・ライフ・バランスの理想について、女性・男性ともに無職者が「家庭生活」の優先を望む割合は、有職者と比較して低い。

ワーク・ライフ・バランスの理想について、男女とも職業の有無に関係なく、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』を理想としている人が3割を超えている。

『「仕事」と「家庭生活」を優先』でも割合は高く、女性有職者で20.7%、女性無職者で19.0%、男性有職者で24.0%、男性無職者で20.5%となっている。

また、女性有職者では、『「家庭生活」を優先』を理想とする人も19.0%と高い。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ②理想【性、職業の有無別】



【内閣府調査・市政世論調査との比較】

①現実

ワーク・ライフ・バランスの現実について、内閣府調査を参考比較した場合、今回調査においては「仕事」を優先と回答した人の割合が高く、「家庭生活」を優先と答えた人の割合は低い。

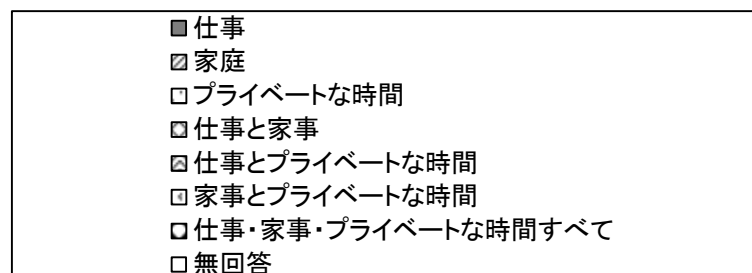
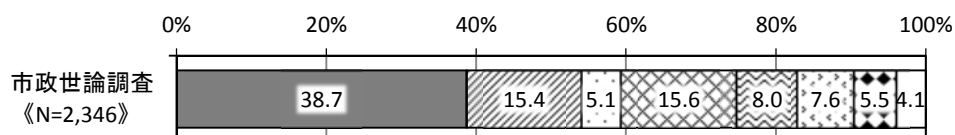
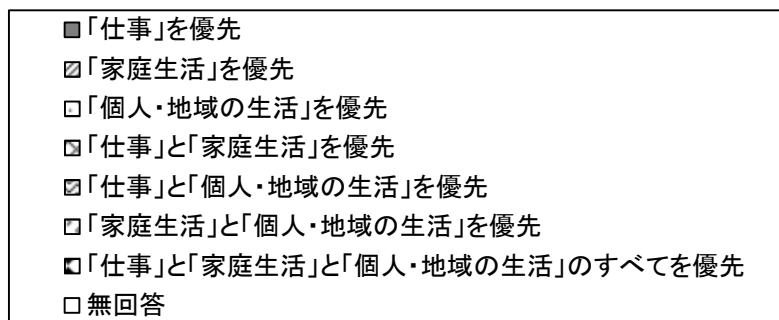
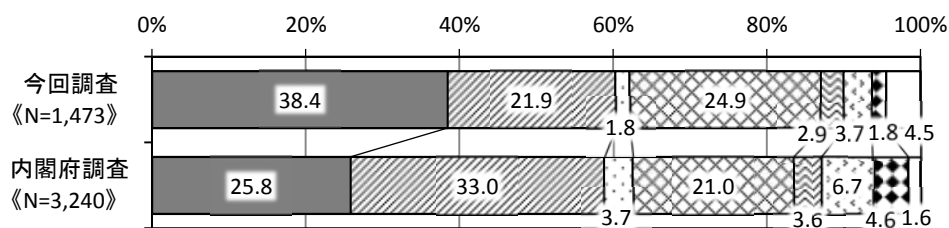
ワーク・ライフ・バランスの現実について、今回調査と市政世論調査の優先順位1位は「仕事」が3割以上で最も高く、内閣府調査では『「家庭生活」を優先』が高くなっている。

2位は今回調査では『「仕事」と「家庭生活」を優先』が24.9%、市政世論調査でも「仕事と家事」が15.6%となっているが、内閣府調査では『「仕事」を優先』が25.8%で2位となる。

3位は、今回調査は『「家庭生活」を優先』21.9%で、市政世論調査でも「家庭」15.4%、内閣府調査では『「仕事」と「家庭生活」を優先』21.0%となった。

1位から3位を見ると、今回調査と市政世論調査は同じ順序であるが、内閣府調査では順序に相違がみられる。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ①現実
【今回調査・内閣府調査・市政世論調査】



②理想

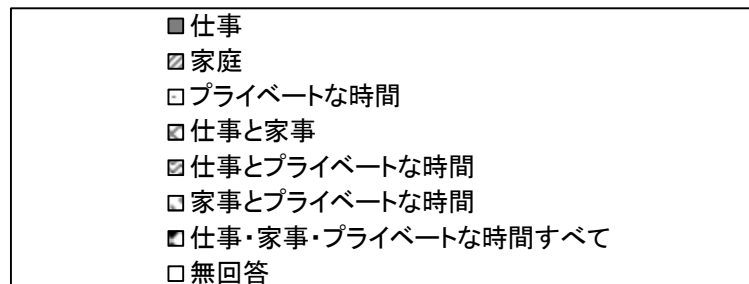
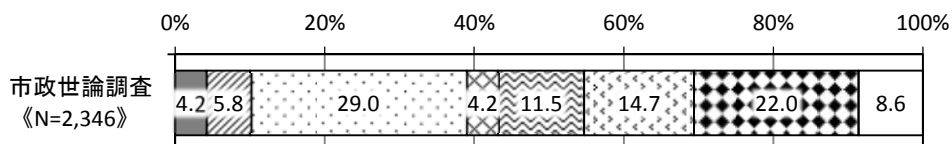
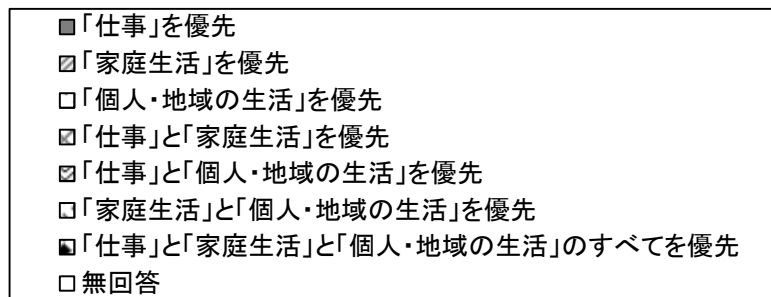
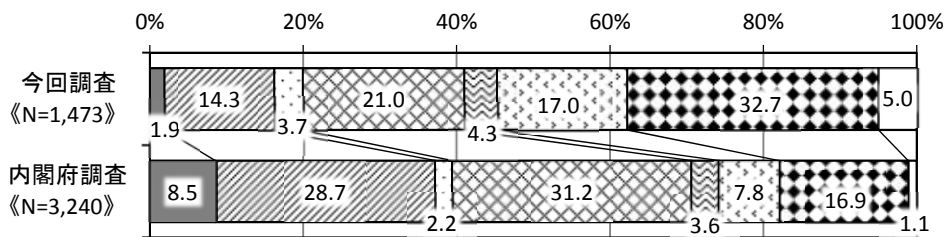
ワーク・ライフ・バランスの理想について、内閣府調査を参考比較した場合、今回調査においては「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先することを理想とする人の割合が高い。

ワーク・ライフ・バランスの理想について、優先順位の1位は、今回調査では『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』が32.7%、内閣府調査では『「仕事」と「家庭生活」を優先』が31.2%、市政世論調査では「プライベートな時間」が29.0%で最も高くなっている。

2位は、今回調査は『「仕事」と「家庭生活」を優先』が21.0%、内閣府調査では『「家庭生活」を優先』が28.7%、市政世論調査では「仕事・家事・プライベートな時間すべて」が22.0%となった。

3位は、今回調査で『「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先』が17.0%で、内閣府調査では『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』が16.9%で、市政世論調査では「家事とプライベートな時間」が14.9%となっており、理想では調査ごとに順序・構成比率に相違がみられる。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ②理想
【今回調査・内閣府調査・市政世論調査】



③現実と理想の比較

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想について、「仕事」を優先する割合は理想では1.9%であるのに対し、現実では全体の約4割を占める。

約3割の人が理想とする『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』は、現実には約2%に留まる。

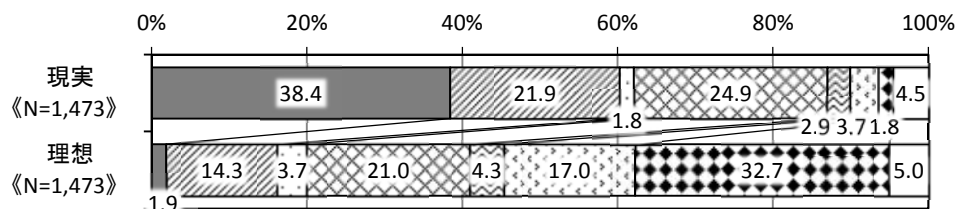
【全体】

ワーク・ライフ・バランスの理想と現実について比較すると、その差が最も大きいのは、『「仕事」を優先』で、現実には38.4%、理想は1.9%とその差は36.5ポイントで、現実が理想を上回っている。

次に差が大きいのは『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』で、現実には1.8%で理想が32.7%とその差は30.9ポイントで理想が上回っている。

理想としてはバランスのとれた生活を望んでいるものの、現実には「仕事」が優先となっている。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ③現実と理想の比較【全体】



- 「仕事」を優先
- ▣「家庭生活」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- ▣「仕事」と「家庭生活」を優先
- ▣「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- ▣「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 無回答

【性別】

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想について、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」を優先』の割合は理想と現実で大きな違いは見られない傾向にある。

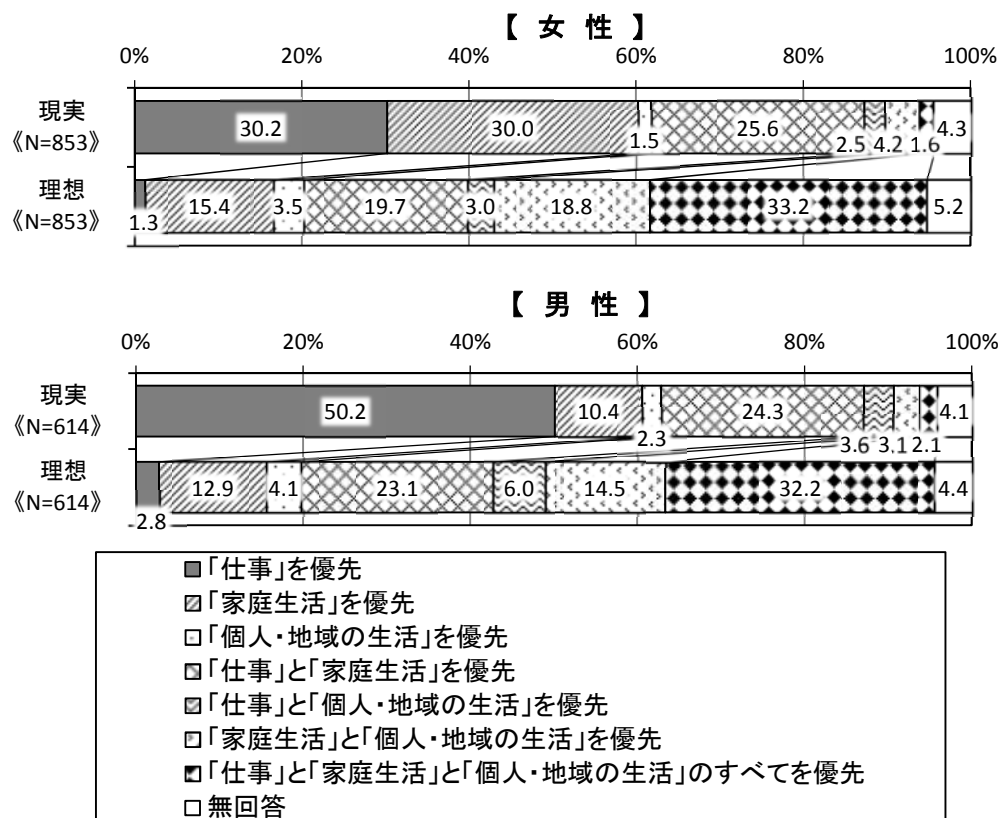
『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』を理想とするものの、現実には「仕事」を優先している割合が高く、特に男性の理想と現実の差が大きい。

男女ともに、『「仕事」を優先』および『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』で、大きな差がみられる。

女性では、『「仕事」を優先』が現実では30.2%、理想では1.3%でその差は28.9ポイントで現実が上回っており、反対に『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』では現実が1.7%、理想は35.0%で理想が31.6ポイント上回っている。

男性では、『「仕事」を優先』が現実で50.2%、理想は2.8%で47.4ポイント現実が上回り、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』では現実が2.1%、理想が32.2%で30.1ポイント理想が上回っている。また、男性は女性よりも理想と現実の差がさらに大きい。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ③現実と理想の比較【性別】



【性・年代別】

ワーク・ライフ・バランスの理想と現実について、男女ともに全ての年代層において、『「仕事」優先』を理想とする人の割合は1割に満たないが、現実には20歳代から60歳の女性で3割以上、男性で5割以上が『「仕事」を優先』となっている。

女性の20歳代から60歳代において、現実と理想の差が大きいのは、『「仕事」を優先』と『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』である。

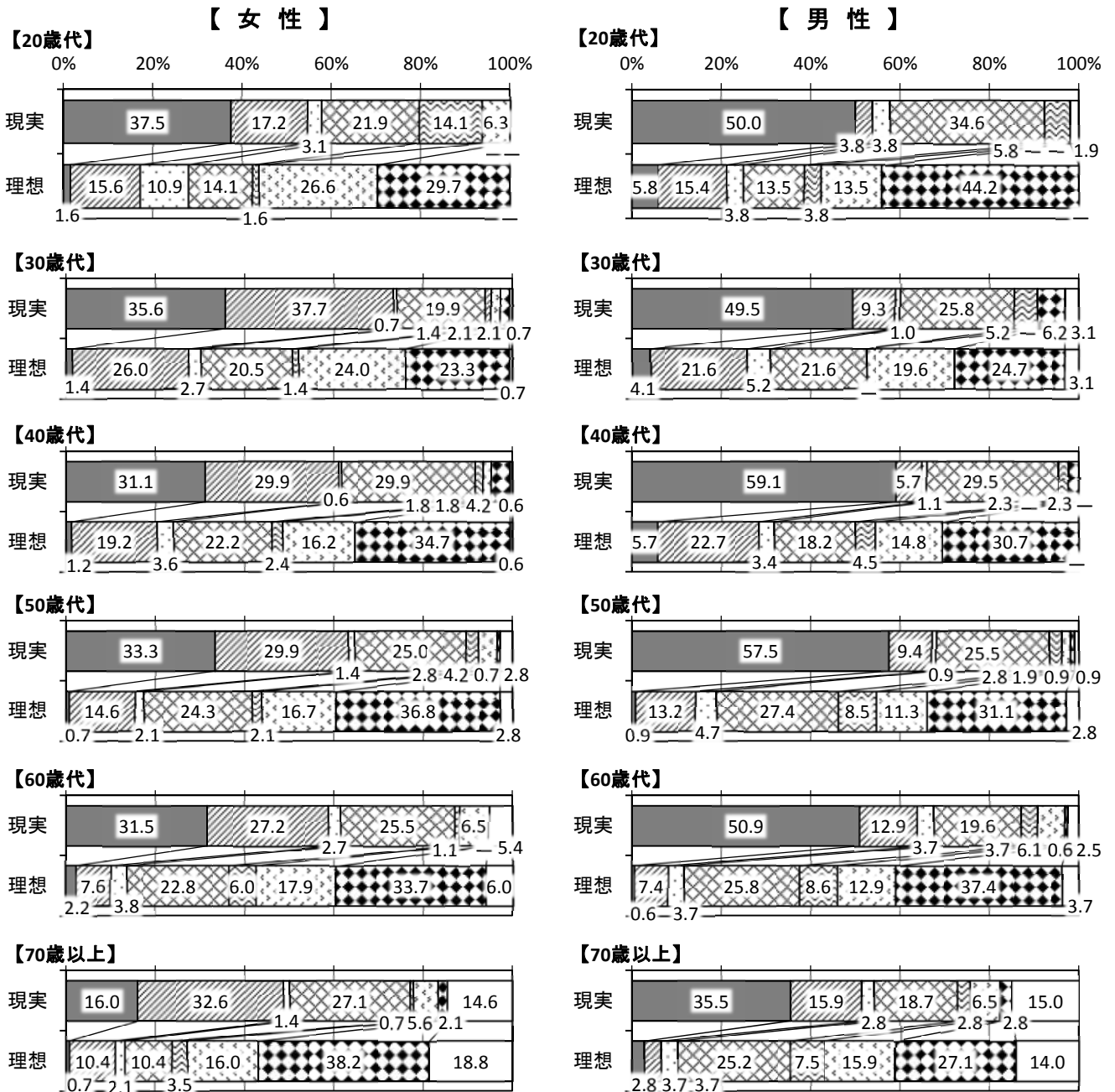
『「仕事」を優先』では、20歳代で35.9ポイント現実が上回っており、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』では、50歳代で理想が現実よりも36.1ポイント上回っている。

なお、女性70歳以上では、『「家庭生活」を優先』で現実が理想よりも32.2ポイント上回り、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』では理想が現実よりも36.1ポイント上回っている。

男性では、すべての年代を通して、『「仕事」を優先』と『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』で現実と理想の差が大きい。

『「仕事」を優先』では、50歳代で現実が理想を56.6ポイント上回り、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域生活」のすべてを優先』では、20歳代で44.2ポイント理想が現実よりも上回っている。

ワーク・ライフ・バランスの現実と理想 ③現実と理想の比較【性・年代別】



- 「仕事」を優先
- ▣「家庭生活」を優先
- 「個人・地域の生活」を優先
- ▣「仕事」と「家庭生活」を優先
- ▣「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
- ▣「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先
- 無回答

※調査数

【女性】

20歳代《N=64》 30歳代《N=146》 40歳代《N=167》 50歳代《N=144》 60歳代《N=184》 70歳以上《N=144》

【男性】

20歳代《N=52》 30歳代《N=97》 40歳代《N=88》 50歳代《N=106》 60歳代《N=163》 70歳以上《N=107》

3. 家庭生活について

(1) 夫婦役割分担の現実と理想

問6. あなたの家庭では、日常の家庭生活の分担はどうしていますか。また理想はどうしたいと考えていますか。

①現在（既婚者）

家庭生活における夫婦の役割分担について、「高齢者の介護」を除く全ての項目について、現実には、『妻』が6割以上を担当している。

【全体】

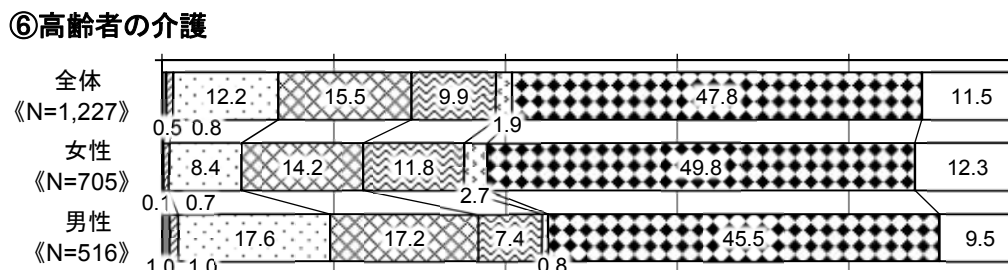
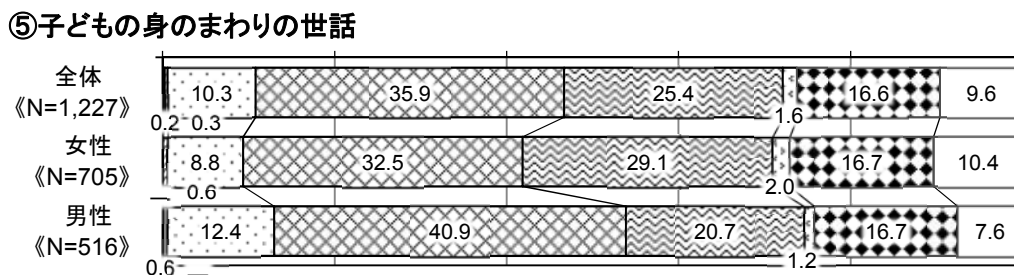
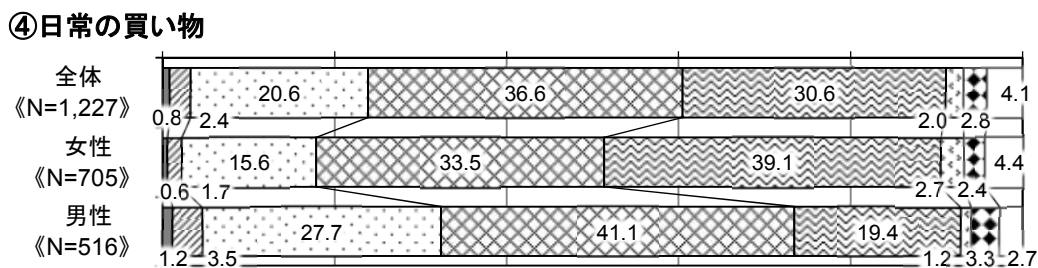
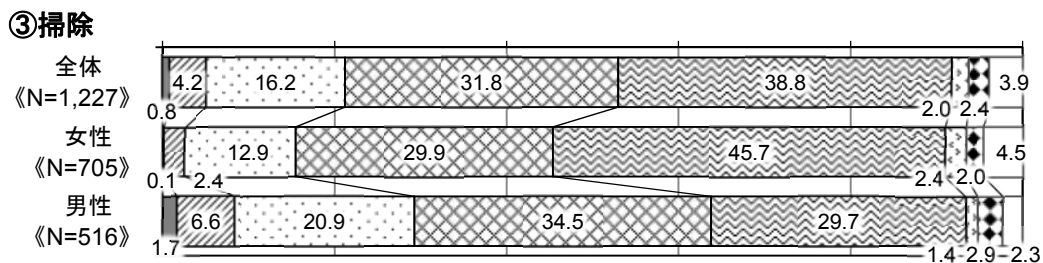
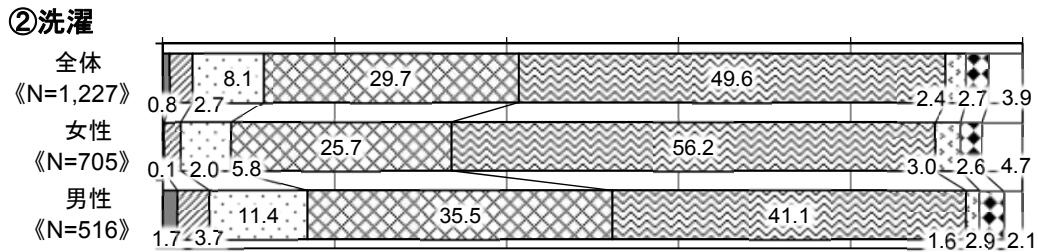
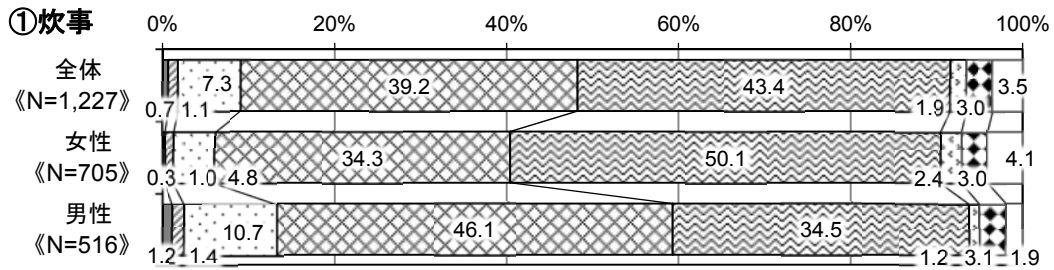
家庭生活における夫婦の役割分担について、『妻』（「主に妻」＋「すべて妻」）と『夫』（「すべて夫」＋「主に夫」）で見ると、「①炊事」・「②洗濯」・「③掃除」・「④日常の買い物」・「⑤子どもの身のまわりの世話」では、現実には、『妻』が6割以上を担当している。また「⑥高齢者の介護」については「該当しない・その他」が47.8%となっており、外部のサービスなどを利用していると考えられる。

【性別】

男女ともすべての項目で『妻』（「主に妻」＋「すべて妻」）が担当しているが、男女間での差が見られ、特に「③掃除」と「④日常の買い物」では女性が男性よりも10ポイント以上上回っている。

また、すべての項目の「夫と妻の半々」でも男女間の差が見られ、「④日常の買い物」で12.1ポイント、「⑥高齢者の介護」で9.2ポイント、「③掃除」で8.0ポイント、男性が女性を上回っている。

夫婦役割分担の現実と理想 ①現実【全体、性別】



■すべて夫 ■主に夫 □夫と妻の半々
 □主に妻 ■すべて妻 □夫と妻以外の家族
 ■該当しない・その他 □無回答

②理想（既婚者、未婚者・単身者）

家庭生活における夫婦の役割分担について、全ての項目で約4割から6割が「夫と妻の半々」を理想としている。

また、「炊事」と「洗濯」については、男女ともに3割以上が「主に妻」が担当するのが理想と答えている。

【全体】

家庭生活における理想的な夫婦の役割分担について、全ての項目で「夫と妻の半々」が最も高くなっている。

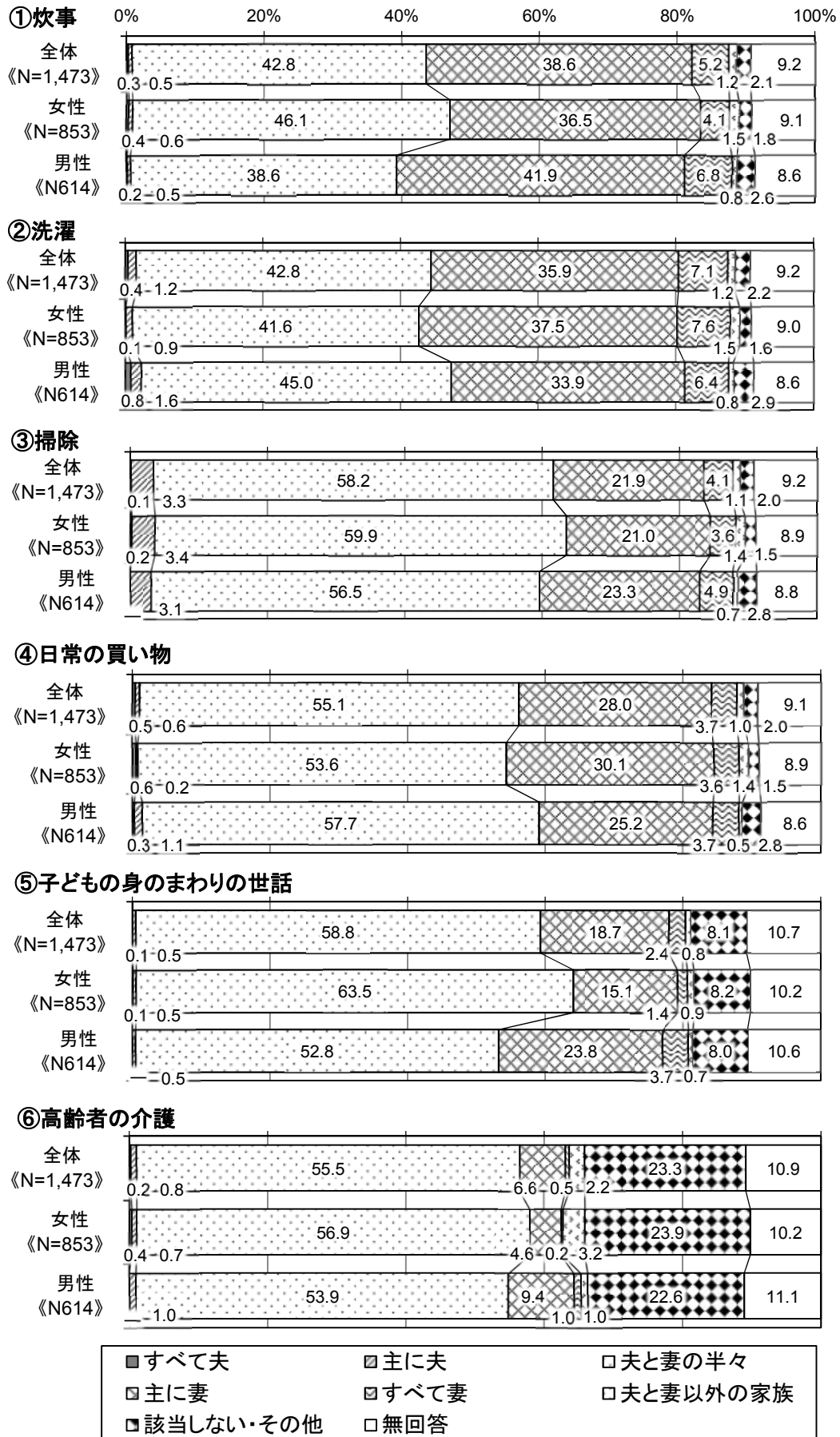
「①炊事」と「②洗濯」では4割以上、「③掃除」、「④日常の買い物」、「⑤子どもの身のまわりの世話」、「⑥高齢者の介護」では5割以上が「夫と妻の半々」を理想としている。

【性別】

「夫と妻の半々」は6項目のうち4項目で女性が男性より高い。女性が男性より高い項目は「①炊事」が7.5ポイント、「③掃除」が3.4ポイント、「⑤子どもの身のまわりの世話」が10.7ポイント、「⑥高齢者の介護」が3.0ポイントとなっている。

各項目で「夫と妻の半々」が高くなっているが、「①炊事」、「②洗濯」は男女ともに3割以上が「主に妻」が担当するのが理想と回答している。

夫婦役割分担の現実と理想 ②理想【全体、性別】



【既婚者と未婚者・単身者との理想の比較】

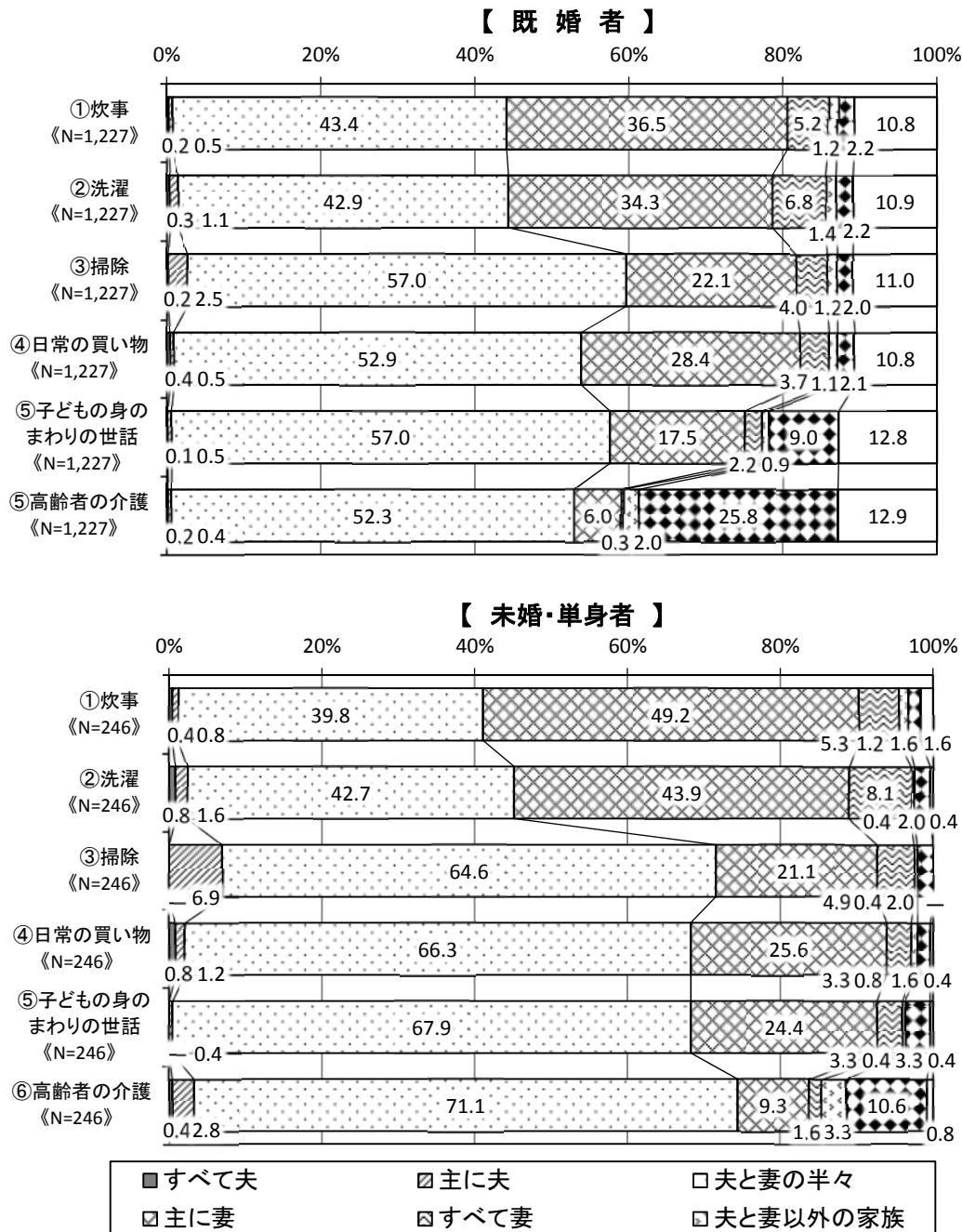
家庭生活における夫婦の役割分担について、既婚者は全項目において「夫と妻の半々」が理想と答える割合が最も高い。未婚・単身者においては、「炊事」と「洗濯」の2項目については「主に妻」が担当するのが理想であると答える割合が最も高い。

【全体】

家庭生活における理想的な夫婦の役割分担について、「既婚者」は、全項目について「夫と妻の半々」が理想とする割合が高く、「①炊事」と「②洗濯」は4割以上、「③掃除」・「④日常の買い物」・「⑤子どもの身のまわりの世話」・「⑥高齢者の介護」では5割以上が「夫と妻の半々」が理想と回答している。

「未婚・単身者」では、「①炊事」と「②洗濯」については「主に妻」と回答する割合が4割以上と最も高く、「③掃除」・「④日常の買い物」・「⑤子どもの身のまわりの世話」・「⑥高齢者の介護」については「夫と妻の半々」が理想と回答する割合が最も高く、いずれも6割を超えている。

夫婦役割分担の現実と理想 ②理想【全体】（既婚者と未婚・単身者との比較）



③現実と理想の比較（「該当しない」「無回答」を除く）

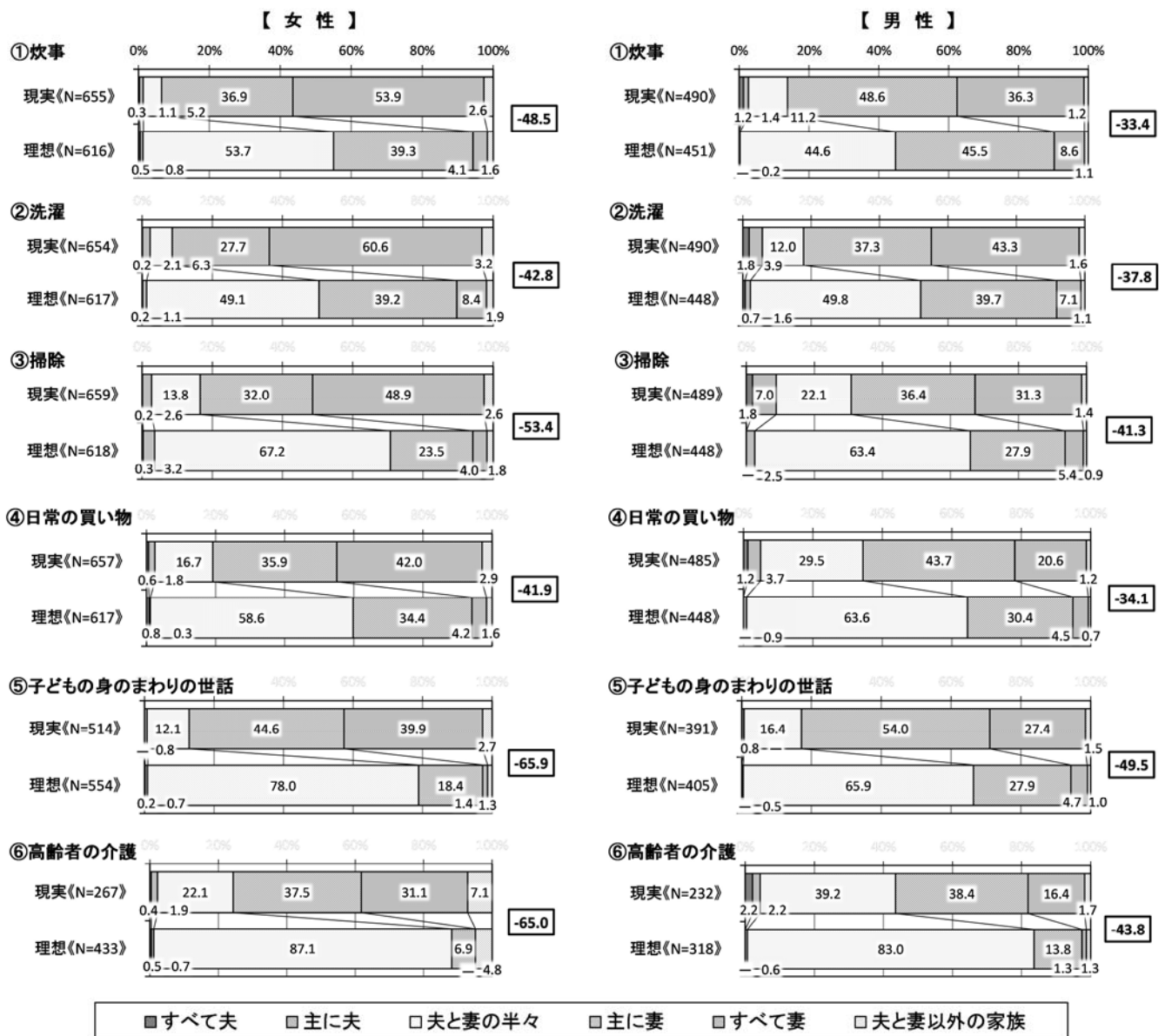
・現実（既婚者） — 理想（既婚者）

家庭生活における夫婦の役割分担について、全項目において理想とする「夫と妻の半々」は、現状では低く、8割以上が理想とする「高齢者の介護」においても、現状では4割以下に留まる。

【性別】

家庭生活における夫婦の役割分担について、「夫と妻の半々」と回答した現実と理想の差をみると、男女ともに「⑤子どもの身のまわりの世話」で差が大きく、女性は65.9ポイント、男性は49.5ポイントとなっている。また、すべての項目で女性が男性よりも現実と理想の差が大きく、「⑥高齢者の介護」で21.2ポイントと最も高く、次いで「⑤子どもの身のまわりの世話」が16.4ポイント、「①炊事」が15.1ポイント、「③掃除」が12.1ポイントとなっている。

夫婦役割分担の現実と理想 ③現実と理想の比較【性別】
現実（既婚者） — 理想（既婚者）



□ 囲み内の数字は「夫と妻の半々」の理想と現状の差（現状—理想）

④性別役割分担意識と日常の家庭生活の分担【既婚者】

性別役割分担意識別に、日常の家庭生活の分担についてみると、性別役割分担意識をもっている人の方が、現実と理想の差が小さい。

【現実と理想の比較】

性別役割分担意識別に、各項目の現実と理想の「夫と妻の半々」と回答した割合の差をみると、性別役割分担意識をもたない人（「男女とも仕事をもち、家庭での責任を分担するのがよい」、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」）の方が現実と理想の差が大きくなっている。

特に差が大きいのは、「③掃除」で性別役割分担意識をもっている人（「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」、「男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい」）が 57.6 ポイント、性別役割分担意識をもたない人が 102.1 ポイントでその差は 44.5 ポイント、次いで「⑥高齢者の介護」で性別役割分担意識をもっている人が 77.6 ポイント、性別役割分担意識をもたない人が 117.5 ポイントでその差は 39.9 ポイントとなっている。

性別役割分担意識と日常の家庭生活の分担 ①現実と理想【既婚者】

(該当しない・その他、無回答を除く)

現実と理想の差＝現実－理想
数値が低いほど理想が高い

		調査数	(1)現実						(2)理想						※ 「夫と妻で半々」の 現在と理想の差	
			すべて夫	主に夫	夫と妻の半々	主に妻	すべて妻	夫と妻以外の家族	すべて夫	主に夫	夫と妻の半々	主に妻	すべて妻	夫と妻以外の家族		
①炊事	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	112	0.9	2.7	5.4	32.1	57.1	1.8	100	1.0	0.0	35.0	47.0	17.0	0.0	-29.6
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	66	0.0	1.5	4.5	45.5	47.0	1.5	61	0.0	0.0	37.7	47.5	13.1	1.6	-33.2
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	561	0.5	1.1	7.0	44.2	45.5	1.8	526	0.0	0.2	56.1	38.0	4.0	1.7	-49.1
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	365	1.1	1.1	10.1	41.9	43.6	2.2	344	0.6	1.5	47.1	45.3	4.4	1.2	-37.0
	その他	15	0.0	0.0	6.7	46.7	46.7	0.0	13	0.0	0.0	53.8	38.5	7.7	0.0	-47.1
	わからない	11	0.0	0.0	9.1	18.2	63.6	9.1	10	0.0	0.0	30.0	60.0	10.0	0.0	-20.9
②洗濯	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	112	0.9	2.7	2.7	27.7	64.3	1.8	101	0.0	0.0	31.7	49.5	17.8	1.0	-29.0
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	65	0.0	3.1	6.2	35.4	53.8	1.5	60	0.0	1.7	38.3	45.0	15.0	0.0	-32.1
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	557	0.7	2.9	9.2	34.1	51.0	2.2	522	0.4	1.0	55.0	36.4	5.6	1.7	-45.8
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	370	1.4	3.2	10.0	29.7	52.4	3.2	345	0.6	2.3	47.8	40.9	6.7	1.7	-37.8
	その他	15	0.0	0.0	6.7	20.0	73.3	0.0	13	0.0	0.0	46.2	30.8	23.1	0.0	-39.5
	わからない	10	0.0	0.0	10.0	20.0	60.0	10.0	10	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	-50.0
③掃除	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	113	0.0	6.2	15.0	25.7	50.4	2.7	101	0.0	2.0	45.5	38.6	12.9	1.0	-30.5
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	65	0.0	1.5	26.2	26.2	44.6	1.5	60	0.0	1.7	53.3	36.7	8.3	0.0	-27.1
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	559	0.9	5.4	17.2	36.1	39.0	1.4	525	0.0	3.4	71.4	20.6	2.9	1.7	-54.2
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	370	1.4	3.2	16.2	35.4	41.4	2.4	343	0.6	2.9	64.1	26.8	4.1	1.5	-47.9
	その他	15	0.0	0.0	26.7	20.0	53.3	0.0	13	0.0	0.0	76.9	23.1	0.0	0.0	-50.2
	わからない	11	0.0	9.1	18.2	18.2	36.4	18.2	10	0.0	0.0	60.0	30.0	10.0	0.0	-41.8
④日常の買い物	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	112	1.8	3.6	20.5	32.1	36.6	5.4	102	2.0	0.0	52.9	32.4	11.8	1.0	-32.4
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	64	0.0	3.1	20.3	51.6	25.0	0.0	59	0.0	0.0	52.5	40.7	5.1	1.7	-32.2
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	556	0.7	2.0	23.4	40.1	32.2	1.6	523	0.0	0.4	63.9	30.6	3.8	1.3	-40.5
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	370	1.1	3.2	20.3	40.0	33.0	2.4	345	0.6	1.2	60.0	34.2	2.9	1.2	-39.7
	その他	15	0.0	0.0	33.3	20.0	46.7	0.0	13	0.0	0.0	61.5	38.5	0.0	0.0	-28.2
	わからない	10	0.0	0.0	20.0	10.0	60.0	10.0	11	9.1	0.0	54.5	36.4	0.0	0.0	-34.5
⑤子どもの身のまわり	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	91	1.1	0.0	7.7	50.5	38.5	2.2	91	0.0	0.0	51.6	38.5	8.8	1.1	-43.9
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	48	0.0	0.0	6.3	50.0	41.7	2.1	55	0.0	0.0	56.4	32.7	9.1	1.8	-50.1
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	452	0.4	0.4	14.4	47.6	34.3	2.9	466	0.0	0.6	77.3	18.7	1.9	1.5	-62.9
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	279	0.0	0.7	15.4	50.5	32.3	1.1	312	0.3	1.0	75.6	20.8	1.6	0.6	-60.2
	その他	12	0.0	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0	12	0.0	0.0	58.3	41.7	0.0	0.0	-41.6
	わからない	10	0.0	0.0	20.0	20.0	50.0	10.0	10	0.0	0.0	90.0	10.0	0.0	0.0	-70.0
⑥高齢者の介護	男は仕事、女は家庭にいるのがよい	53	1.9	0.0	32.1	34.0	26.4	5.7	66	1.5	0.0	63.6	28.8	3.0	3.0	-31.5
	男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	35	0.0	0.0	22.9	45.7	25.7	5.7	42	0.0	0.0	69.0	23.8	2.4	4.8	-46.1
	男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	243	2.1	2.1	30.9	37.4	23.5	4.1	371	0.3	0.8	88.9	6.5	0.0	3.5	-58.0
	男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	155	0.0	3.2	28.4	40.0	24.5	3.9	247	0.0	0.8	87.9	7.7	0.4	3.2	-59.5
	その他	4	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0
	わからない	5	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	40.0	8	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	-47.5

⑤職業の有無と日常の家庭生活の分担【既婚者】

職業の有無別に、日常の家庭生活の分担についてみると、男性無職者は有職者に比べ「高齢者の介護」の分担は、「主に妻」と答える割合が高い。それ以外の項目についてはほぼ「主に妻」と答える割合は有職者に比べて低く、「夫と妻の半々」と答える割合が高い傾向にある。

【現実と理想の比較】

職業の有無別に、各項目の現実と理想について、「夫と妻の半々」と回答した割合の差をみると、女性有職者において、現実と理想の差が最も大きいのは「⑥高齢者の介護」で現実 20.3%、理想 87.3%で、理想が現実よりも 67.0 ポイント上回っている。次いで「⑤子どもの身のまわりの世話」で、現実 13.9%、理想 79.3%で、理想が現実を 65.4 ポイント上回り、次いで「③掃除」で、現実 13.9%、理想 69.5%、理想が現実よりも 55.6 ポイント上回っている。

女性無職者において、現実と理想の差が最も大きいのは「⑤子どもの身のまわりの世話」で現実 9.5%、理想 76.0%で、理想が現実よりも 66.5 ポイント上回っている。次いで「⑥高齢者の介護」で、現実 25.5%、理想 87.1%で、理想が現実よりも 61.6 ポイント上回っており、次に「③掃除」で、現実 14.2%、理想 64.4%、理想が現実よりも 50.2 ポイント上回っている。

男性有職者において、現実と理想の差が最も大きいのは「⑤子どもの身のまわりの世話」で現実 17.5%、理想 67.9%、理想が現実よりも 50.4 ポイント上回っている。次いで「⑥高齢者の介護」で、現実 36.8%、理想 85.0%、理想が現実よりも 48.2 ポイント上回り、次に「③掃除」で、現実 20.8%、理想 62.5%で、理想が現実よりも 41.7 ポイント上回っている。

男性無職者において、現実と理想の差が最も大きいのは「⑤子どもの身のまわりの世話」で現実 14.1%、理想 61.8%であり、理想が現実よりも 47.7 ポイント上回っている。次いで「③掃除」で、現実 25.5%、理想 65.9%で、理想が現実よりも 40.4 ポイント上回り、次に「②洗濯」で、現実 12.9%、理想 52.8%で、理想が現実を 39.9 ポイント上回っている。

職業の有無と日常の家庭生活の分担 ①現実と理想【既婚者】

(該当しない・その他、無回答を除く)

現実と理想の差＝現実－理想
数値が低いほど理想が高い

			調査数	(1)現実						(2)理想						※ 「夫と妻で半々」の 現在と理想の差	
				すべて夫	主に夫	夫と妻の半々	主に妻	すべて妻	夫と妻以外の家族	すべて夫	主に夫	夫と妻の半々	主に妻	すべて妻	夫と妻以外の家族		
①炊事	女性	有職者	357	0.0	1.4	6.4	38.1	51.8	2.2	348	0.3	1.1	54.3	39.1	4.0	1.1	-47.9
		無職者	287	0.7	0.7	3.8	35.5	56.1	3.1	261	0.8	0.4	52.1	40.2	4.2	2.3	-48.3
	男性	有職者	337	0.3	1.2	10.4	50.7	36.2	1.2	313	0.0	0.3	41.9	49.2	8.0	0.6	-31.5
		無職者	140	3.6	1.4	12.9	45.0	36.4	0.7	127	0.0	0.0	51.2	37.8	9.4	1.6	-38.3
②洗濯	女性	有職者	358	0.0	2.2	8.4	28.2	58.9	2.2	348	0.3	1.4	51.1	39.4	6.6	1.1	-42.7
		無職者	285	0.4	2.1	3.9	26.7	62.5	4.6	262	0.0	0.8	46.9	38.2	11.1	3.1	-43.0
	男性	有職者	339	0.9	4.1	11.8	40.1	41.0	2.1	313	0.6	1.3	48.9	42.2	6.4	0.6	-37.1
		無職者	140	4.3	3.6	12.9	30.0	48.6	0.7	125	0.8	2.4	52.8	34.4	8.0	1.6	-39.9
③掃除	女性	有職者	360	0.3	2.5	13.9	36.1	45.8	1.4	347	0.6	2.9	69.5	22.5	3.2	1.4	-55.6
		無職者	288	0.0	2.8	14.2	26.7	52.1	4.2	267	0.0	3.0	64.4	25.0	5.3	2.3	-50.2
	男性	有職者	337	1.2	5.9	20.8	39.2	31.5	1.5	312	0.0	1.9	62.5	30.4	4.5	0.6	-41.7
		無職者	141	3.5	9.9	25.5	29.1	30.5	1.4	126	0.0	4.0	65.9	23.0	6.3	0.8	-40.4
④日常の買い物	女性	有職者	358	0.3	1.4	14.2	38.5	44.1	1.4	347	0.3	0.6	58.2	35.4	4.0	1.4	-44.0
		無職者	289	1.0	2.4	19.4	33.2	39.1	4.8	265	1.5	0.0	58.9	33.2	4.5	1.9	-39.5
	男性	有職者	336	0.3	3.3	27.7	46.7	20.8	1.2	312	0.0	1.3	61.5	32.7	3.8	0.6	-33.8
		無職者	138	3.6	4.3	34.8	37.0	18.8	1.4	125	0.0	0.0	69.6	24.8	5.6	0.0	-34.8
⑤子どもの世話まわりの身	女性	有職者	295	0.0	1.0	13.9	45.1	37.6	2.4	323	0.3	0.9	79.3	17.0	0.9	1.5	-65.4
		無職者	211	0.0	0.5	9.5	44.5	42.2	3.3	225	0.0	0.4	76.0	20.9	1.8	0.9	-66.5
	男性	有職者	286	0.3	0.0	17.5	54.5	26.6	1.0	296	0.0	0.3	67.9	27.7	3.0	1.0	-50.4
		無職者	99	2.0	0.0	14.1	51.5	30.3	2.0	102	0.0	0.0	61.8	28.4	8.8	1.0	-47.7
⑥高齢者の介護	女性	有職者	153	0.0	1.3	20.3	39.9	32.7	5.9	259	0.0	0.8	87.3	7.7	0.0	4.2	-67.0
		無職者	110	0.9	2.7	25.5	34.5	28.2	8.2	170	1.2	0.6	87.1	5.3	0.0	5.9	-61.6
	男性	有職者	155	1.9	2.6	36.8	39.4	17.4	1.9	226	0.0	0.9	85.0	11.9	1.3	0.9	-48.2
		無職者	74	2.7	1.4	44.6	37.8	13.5	0.0	86	0.0	0.0	77.9	18.6	1.2	2.3	-33.3

(2) 男性の家事・子育て・介護への参加

問7. 今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、特に、どのようなことが重要だと思いますか。(2つまで回答可)

今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加するために重要なこととして、男女ともに「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」の割合が最も高いが、他の項目については、男女間で順位や割合に差が見られる。

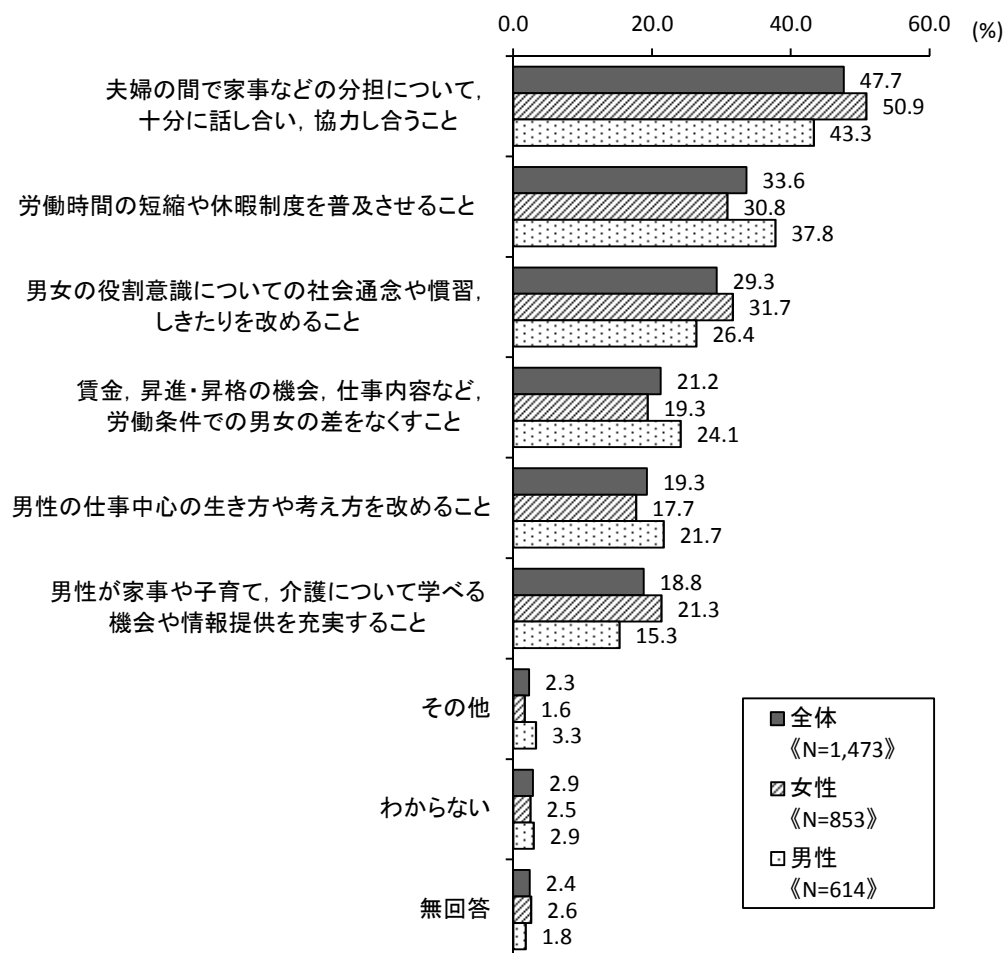
【全体】

今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加するために重要なこととして、「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」が47.7%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」が33.6%、「男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること」が29.3%と続いている。

【性別】

「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」という回答は、女性が50.9%、男性が43.3%と若干男女差はあるものの男女ともに最も高い。2番目は、女性は「男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること」が29.3%、男性は「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」が37.8%と、2番目以降は順位に男女差が見られる。

男性の家事・子育て・介護への参加 (2つまで回答可) 【全体・性別】



【前回調査との比較】

今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加するために重要なことについて、前回調査と比べると、全体的な傾向は同じであるが、多くの項目において回答の割合が低下している。その理由としては、新設した「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」に回答が分散したと考えられる。

今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加するために重要なことについて、前回調査と比べると、「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」については、「今回調査」が47.7%で「前回調査」が57.3%と、今回調査が前回調査よりも9.6ポイント下まわっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」については、今回調査が前回調査よりも3.7ポイント下まわっており、同様に、「男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること」も5.7ポイント下まわっている。

今回調査で、新設した「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」は21.1%であった。

男性の家事・子育て・介護への参加〈2つまで回答可〉【今回調査・前回調査】

※前回調査では、家事・子育て・介護に、男性は「参加したい」、女性は「参加してほしい」人が回答

